

高機能自閉症の理解を支援する教材の開発と評価

小川 亮 (富山大学)

自閉症に対して誤解を持つ一般の人が 40%程度存在する(自閉症協会,2004)。本研究では高機能自閉症に関する理解を高める教材と、その教育効果を測定するテストを作成し、学習前後の成績を比較することでその効果を検討した。

1. 方法

＜時期＞2014 年 5 月

＜調査協力者＞T 県内 T 大学の 1 年生 40 名。内訳は男性 14 名 (平均年齢=18.80 歳, SD=0.45)、女性 26 名 (平均=18.68 歳, SD=0.48)。

＜調査用紙＞【事前調査】学部、学年、性別、年齢と高機能自閉症に関する 25 問の知識問題、高機能自閉症の人と会った経験の有無、高機能自閉症からイメージする言葉 (3 つ以上) への回答を求める調査。【事後調査】事前調査と同一の高機能自閉症に関する 25 問の知識問題、高機能自閉症からイメージする言葉 (3 つ以上)、教材に関する評価 (4 項目の 6 段階評価尺度) への回答を求める調査。

＜教材＞高機能自閉症に関する知識を解説する音声解説付きの PowerPoint ファイルの形で具体化された。内容は、①自閉症の特徴、②高機能自閉症の定義、③アスペルガー症候群との区別、④高機能自閉症の特徴、⑤二次障害の説明、⑥生じやすい困難、⑦求められる支援のあり方、⑧私たちにできること、⑨まとめ、から構成されていた。

＜手続き＞一般教養の情報処理の授業において、集団形式で実施した。「高機能自閉症に関する調査」への協力を依頼し、事前調査を実施した。その後、プレゼンテーションファイルを自動実行する形で、教材+音声を提示した。教材提示後に事後調査を実施した。

2. 結果

【知識テスト】事前調査と事後調査における知識テストの成績を、対応のある t 検定で比較した結果を表 1 に示した。25 問中 19 問で得点が有意に上昇したことが示された。得点の上昇が認められなかった 6 項目では、事前調査段階における成績が 70%以上と高かったことが分かった。

【教材評価】事後調査の 4 項目の教材評価の結果、「役だった」「分かりやすい」の 2 つの項目では、0～5 の 6 段階評定で平均が 4 以上であった。「高機能自閉症の

人に適切に対処できる」と「高機能自閉症の人と積極的に関わっていききたい」の 2 項目では平均値が 3.2～3.4 であり、高機能自閉症に対する態度 (自信や積極性) が十分に高まったとは言えないが、少なくともマイナスに働いたわけではないことが示された。

3. 結論 今回開発した教材は、大学生が誤解しやすい部分に有効に働き、知識の習得に効果があった。教材の評価においても、十分に高い評価が得られた。

表 1. 高機能自閉症に関する問題の成績の変化

質問	前	後	p
何かに没頭してしまうことがよくある	0.73	0.90	*
小さな物音に気が付く事がよくある	0.63	0.85	*
意味のない情報にこだわることもある	0.65	0.90	**
小説の登場人物を容易に想像ができる	0.55	0.98	***
作り話にはすぐに気が付く	0.88	0.95	
状況や人間の外見の変化に、気が付かない	0.78	0.90	
冗談が分からない	0.65	0.95	***
同じことを何度も繰り返している	0.70	0.88	
「ごっこ遊び」をするのが好きである	0.83	0.93	
他人の考えを理解するのは苦手だ	0.63	0.95	***
人の誕生日を覚えるのが得意である	0.55	0.98	***
自閉症は遺伝が主な原因である	0.80	0.85	
親のしつけや生活環境が大きく影響	0.50	1.00	***
自分の日課が妨害されると混乱する	0.75	0.95	**
新しい状況に不安を感じない	0.90	0.95	
自閉症とは引きこもりのことである	0.88	1.00	*
自閉症は、カウンセリングで直せる	0.63	0.95	***
同じやり方でしか取り組めないことが多い	0.63	0.95	***
予定が突然変わるとパニックになる	0.73	0.95	**
言葉を素直に受け取る	0.63	0.95	***
冗談言い合うのが好きだ	0.78	0.93	*
他人の考えを理解するのが得意である	0.68	0.98	***
ごっこ遊びをするのが苦手である	0.63	0.95	***
社交的である	0.80	0.98	*
新しい状況で、パニックになることもある	0.65	0.93	**